

読む医療 専門医が語る現代病気事情

膵臓がん

膵臓は胃の裏側、脊椎の前側に位置する約20cmの横に細長い臓器で頭部、尾部からなります。膵臓から発生したがんをすべて「膵がん」と呼びますが、そのうちの90%以上は膵管の細胞から発生する「浸潤性膵管癌」で、膵がんといえば通常この膵管癌のことを指します。

膵がん発生の危険因子には▽喫煙▽飲酒▽慢性膵炎▽膵嚢胞▽糖尿病などが考えられています。また、食事では高脂肪食や肉摂取がリスクを増加させ、野菜、果物摂取がリスクを低下させるといわれています。

わが国では、がんの臓器別死亡数で

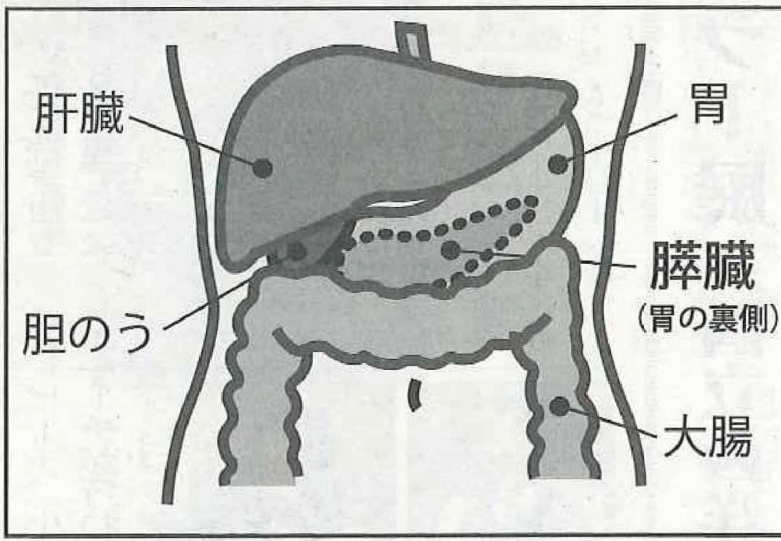
◇執筆者紹介◇宮下正夫／日本医科大学消化器外科教授／日本医科大学千葉北総病院外科部長 医学博士／日本消化器外科学会指導医／日本消化器病学会指導医／日本



がん治療認定医機構認定医／日本消化管学会胃腸科指導医／消化器がんの手術が専門。

喫煙・飲酒、糖尿病などがリスクに

は男性が5位、女性が4位です。罹患率は60歳から増加します。膵がんの症状は初期の段階ではほとんどなく、これが発見を難しくしている要因です。進行すると黄疸（尿、結膜、皮膚が黄



初期は無症状
進行すると…

- 黄疸
- 背部痛・腹痛
- 体重減少
- 糖尿病の悪化

などの症状が出る

病状に応じた治療のため集学的治療体制のある病院へ

色くなる)、背部痛、腹痛、体重減少、糖尿病の悪化などの症状が現れます。診断には超音波検査、CT、MRIなどが用いられ、がんが疑われれば確定診断のために病理検査が必要です。治療法は進行度によって異なります。摘出が可能である場合は手術が第一選択となりますが、困難な場合は抗がん剤による化学療法が行われます。膵頭部のがんでは胆管が狭くなることによって胆汁が鬱滞し、黄疸が進み体調が悪化します。そこで、胆汁を細い管で体外へ排出させる方法が行われます。最近では、ステントという管を内視鏡で挿入し、狭くなった胆管を開通させる治療法が用いられます。がんが高度に進行し、体力が低下している場合は症状の緩和に主眼をおいた治療となります。膵臓のどの部分にがんがあるかによって症状も異なるため、個々の病状に応じて最善と考えられる治療が行われます。これを文字通り、ベスト・サポートイブ・ケアと呼んでいます。がん治療全般にいえることですが、各分野の専門家が治療にあたる「集学的治療体制」を整えている病院を受診することをお勧めします。